

取 扱 説 明 書

1 号 消 火 栓

機器を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

尚、この取扱説明書は、最終顧客様までお渡し願って、日々お客さまの目の届くところに保管していただきますようご配慮の程、お願いします。

株式会社 立 売 堀 製 作 所

はじめに

正しい操作方法をご理解頂くため、この取扱説明書を必ず最後までよくお読みください。

- ＊ 屋内消火栓（４０Ａ又は５０Ａ）は、基本的に２人以上で操作するもので、一人がノズルを取り出し火点に向かい、他の１名がポンプ起動とバルブ操作を行った後、放水補助を務めるものです。



危険

操作手順に従い、正しく操作して下さい。
誤操作は、人及び物品に危害を与えることがあります。

[設置上の注意]

- ・ 通行または避難の妨げにならず、火災時等に支障なく操作が行える場所に設置すること。
- ・ 埋込型本体は壁面より露出させないでください。

[格納品]

ノズル１本・ホース２本（２０ｍ）／消火栓バルブ１個当り

[操作手順]

- １）押釦スイッチを入れる。（押釦部を強く押し込む。）



注意

訓練を実施する場合において、火災報知機が消防署と連動しているケースがあるので、確認してください。

- ２）一人が消火栓箱の扉を開けホースを延長し、放水姿勢をとる。

ノズル（ホース架）を少し振り出し、右腕でホース全体をかかえる様にして消火栓バルブ側からノズル側にかけて取出してください。

左手でノズルを持って火点に向かってください。



危険

- ・ 放水による反動力があります。
放水時には前傾姿勢を取り、ノズルは**必ず両手**で保持してください。
- ・ 可変噴霧ノズルを使用する場合、放水パターンの切り換えは片手での操作となり大変危険です。
腕全体で抱え込むように支えて操作してください。
- ・ バンド付ノズルを使用される場合、バンドは運搬用ですので放水時の補助には使用しないでください。
- ・ 人に向けて、放水しないでください。
人に当たると重傷、死亡にいたる場合もあります。

**注 意**

- ・ ホース破損等の危険があるので、キンク（折れ）させないで、出来るだけ真っすぐ延ばしてください。
- ・ ノズルを先に取り出しホース架のクシが外れ、ホースが全て落ちてしまった場合、その時は、そのままノズルを持って火点に向かい、ホースを延長してください。
- * ホースは呼称40mm（又は50mm）×20mが2本接続されています。

3) 他の1名がノズルを保持している人の合図を基に消火栓バルブを開いて放水する。

バルブの開閉方向は反時計方向へ回すと開きます。

**危 険**

ノズルを保持している人が振り回されるおそれがあるので、急激な通水、加圧はしないでください。

[復 旧 方 法]

1) バルブを閉じる。

この時ポンプは作動を続けています。全ての放水が終了した時点で、ポンプ室の停止ボタンを押してください。

2) バルブからホースを取り外し（ノズルをホースから取り外す）、ホース内部の残留水を抜取って、よく乾燥させる。 （ホースを長くご使用して頂くために必要なことです。）

3) バルブにホースを取り付ける。

**注 意**

安易な接続は離脱し事故につながる為、バルブとホース及びホースとホースの接続は、“カチッ”と音がするまで差し込み、必ず引っ張って抜けないことを再確認してください。

4) ノズル架の金具とクシをセットする。

5) ホースをクシに順次掛ける。

6) ホースの差し金具（オス側）にノズルを接続する。

7) ノズルをノズル掛け金具にセットして、扉を閉じる。

[保守点検時の注意事項]

所定の機能・性能を維持するために消防設備士もしくは消防設備点検資格者による法定点検を実施下さい。

以上